

第21回 アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会の開催 (速報)

令和4年11月11日(金)～13日(日)の3日間、福岡県福岡市ヒルトン福岡シーホークにおいて、第21回 アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会が開催された。詳細は次号以降に紹介するが、まずは以下にその概要を報告する。

第21回 アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会の開会式は、11月11日(金) 10時から、ヒルトン福岡シーホーク第1・第2会場 (アルゴス D, E, F) において開催された。開会式では、まず、11月9日(水)に開催された FAVA 代表者会議において FAVA 新会長に選任された藏内勇夫日本獣医師会会長による主催者挨拶が行われた(図1, 2)。主催者挨拶では、阪神淡路大震災の同年に開催された世界獣医学大会(横浜)の大成功について取り上げ、未曾有の生物災害であるコロナ禍の中で開催されるこの大会を成功に導くことができるよう、参加者に対して支援と協力が求められた。

続いて、岸田文雄総理大臣から届けられたビデオメッセージが紹介された。岸田首相は、本大会のテーマとなったワンヘルスの考え方について藏内会長からの説



図1 開会式で FAVA 会長として挨拶する藏内勇夫日本獣医師会会長

明を受けて深い理解を示されており、挨拶の中でもワンヘルスの重要性が取り上げられた。

さらに来賓として、ラファエル・ラガンズ世界獣医師会会長、クアザ・ニザムディン・ハッサン・ニザム FAVA 前会長、林 芳正外務大臣、服部誠太郎福岡県知事、高島宗一郎福岡市長からご挨拶をいただいた。

開会式終了後、国立国際医療研究センター国際ウイルス感染症研究センター長 河岡義裕氏から、本大会の目玉となる記念講演として、「新興感染症の征圧を目指して」と題してインフルエンザウイルス、エボラウイルス、新型コロナウイルスに関する最新の知見が紹介された。

「アジアからのワンヘルスアプローチ」をテーマとする本大会では、大会の全期間を通じて第一会場において、メインストリームの講演として「アジアからのワンヘルスアプローチを考える」と題したワンヘルスをテーマとする特別シンポジウムが開催された。特別シンポジウムは、5つのパートで構成され、それぞれ① COVID-19 とワンヘルス、② 人と動物の共通感染症とワンヘルス、③ 薬剤耐性 (AMR) とワンヘルス、④ 各分野及び機関におけるワンヘルスの取組みとその期待、⑤ まとめと題して、各分野の第一人者による講演が行われた。

またその他にも、産業動物臨床、小動物臨床、獣医公衆衛生、獣医学教育や環境問題に関するセッションが開催されたほか、一般講演、ポスターセッションも行われた。

なお本大会では、日本産業動物獣医学会、日本小動物獣医学会、日本獣医公衆衛生学会の三学会もあわせて開催され、シンポジウムや教育講演が行われた。



図2 開会式の様子



図3 ガラディナーにて鏡開きをする藏内会長及び来賓
 (左から、麻生太郎自由民主党副総裁・自由民主党
 獣医師問題議員連盟会長、オサホン・エナブレ世界
 医師会会長、藏内勇夫会長、ラファエル・ラガンス世
 界獣医師会会長)

さらに、本大会の会期中に同一会場で開催する「福岡県“One Health”国際フォーラム 2022+FAVA」と題する県民講座を含むイベントが開催された。

社交プログラムとして、第1日目の夕刻には展示ホールにおいてウェルカム・パーティーが開催された。ウェルカム・パーティーでは、福岡県から自慢の県産品が提供され、また、本大会の開催にご協力いただいた展示協賛企業・団体から飲食物が提供されて、参加者はしばし歓談に興じて親交を深めていた。

第2日目の夕刻には本大会メインのディナーとなるガラディナーが開催された。ガラディナーは、太宰府天満宮神職・巫女の皆様による神楽「浦安の舞」の荘厳な雰囲気の中で開宴され、海外からの参加者も日本古来からの舞に静かに見入っていた。続いて藏内会長から主催者挨拶が行われ、自由民主党副総裁、自由民主党獣医師問題議員連盟会長の麻生太郎氏、外務大臣 林 芳正氏、福岡県知事 服部誠太郎氏、福岡市長 高島宗一郎氏から来賓ご挨拶をいただいた。さらに、来賓紹介が行われた後、参加者のご健康とご多幸を祈って鏡開きが行われた(図3)。

続いて日本医師会副会長 角田 徹氏の発声による乾杯が行われて、歓談に入った。その後、福岡県のワンヘルスの取組の一つであるワンヘルス認証制度が紹介され、このディナーの料理の食材は福岡の地産地消のものであることについてビデオが映写された。その後九州交響楽団のメンバーとオペラ歌手 林 摩耶氏によるステージが行われ、最後にFAVA副会長である大韓獣医師会ホ・ジュヒョン会長の挨拶で閉会された。

第3日目の閉会式に先立ち、FAVAバンコク事務所ディレクターのアチャリア・サイラスト氏から3日間にわたって第1会場で行われたメインストリームの特別シンポジウム「アジアからのワンヘルスアプローチを考



図4 アジア ワンヘルス福岡宣言に調印する藏内会長
 (左は、FAVA副会長に選任されたホ・ジュヒョン
 大韓獣医師会会長)



図5 調印式後の記念撮影

(左から、コラゾン・ポリカーピオ・オキシデンタル (FAVA 会計担当), アチャリア・サイラスト (FAVA バンコク事務所長), 桐明和久 (福岡県議会議長), ホ・ジュヒョン (大韓獣医師会会長), バンバン・ボンジョ・プリオセリヤント (FAVA 事務局長), 服部誠太郎 (福岡県知事), 藏内勇夫 (FAVA 会長・日本獣医師会会長), クアザ・ニザムディン・ハッサン・ニザム (FAVA 前会長), ロリー・テラー (アメリカ獣医師会会長), デイビッド・タン (台湾獣医師会会長), バーナード・B・ベイシック (フィリピン獣医師会会長))

る」の取りまとめが行われた。

続いて、本大会の成果として採択される「アジアワンヘルス福岡宣言」について藏内大会長から提案説明が行われ、本文が読み上げられて、全会一致で採択された。あらかじめ参加各国代表者のサインを得た宣言文に藏内会長のサインが加えられ、本宣言が調印されたことが国際獣疫事務局アジア太平洋地域代表 釘田博文座長から宣言された(図4, 5)。

その後、本大会を振り返る記録映像が映写され、藏内会長から閉会の挨拶が行われて閉会した。